



對那些高傲的從者們

用
令咒
使其
強制發情
的情況

F.W.ZHolic

DOJIN
R18
成人向け
18歳未満の
購入・閲覧禁止

《モードレッドの場合》

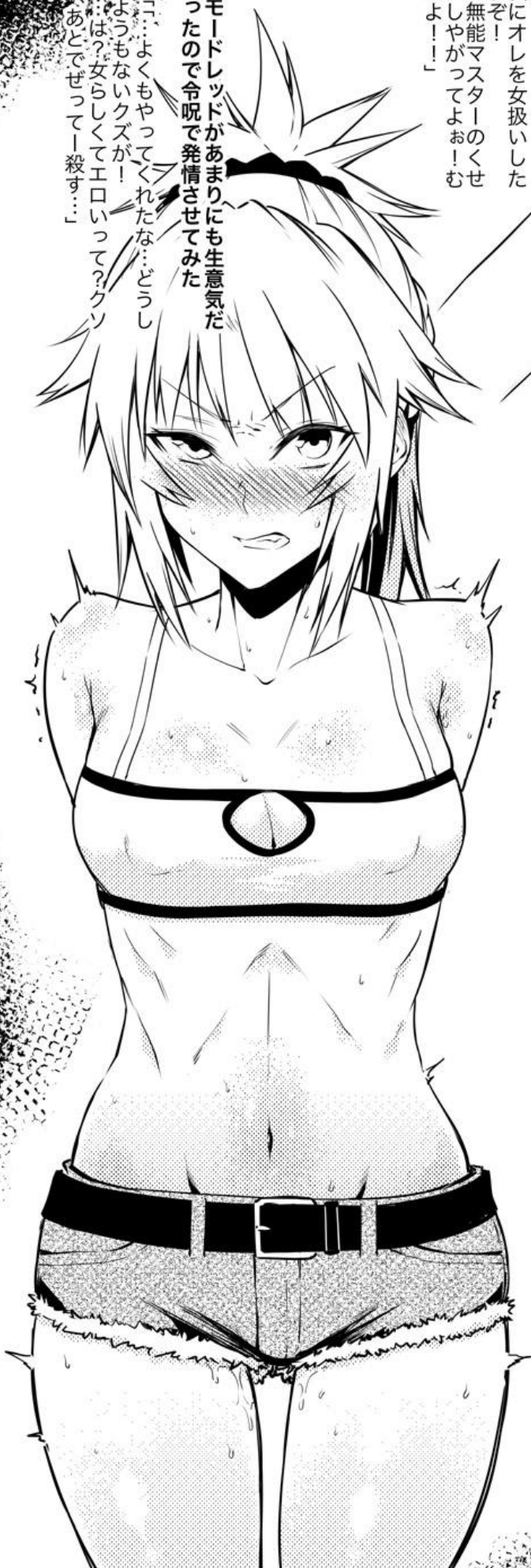
「てめえ次にオレを女扱いしたらぶっ殺すぞ！
ゴミクズの無能マスターのくせに偉そうにしゃがってよお！むかつくんだよ！」

モードレッドがあまりにも生意気だったので令呪で発情させてみた

「…よくもやってくれたな…どうしようもないクズが！
は？女らしくてエロいって？クンあどでせってー殺す…」

「…こいつ見たら殺す…」
「…なんだその顔？まさかやれるかもって考えてんのか？…はっ、頭がお花畑すぎて可哀想だぜ…」

「別になんともねえよ、アホか。ただ、そのあれだ！暑いんだよ！感じるとかじゃなくて…」





「ふ……ふむ……ふ……ふ……」

令呪の効果は抜群のようだ。

モードレッドは嫌がりつつも、我を忘れて頭を前後前後とちんぽにしゃぶっていた。空いてる手が自分を慰めてくれることにも気づかず、さもこれが当然かのように。

「……！！
うん……くっ……ぶっは……はあ……はあ……はあ……
出すなら出すって言えよ、溢れたじやねーかこのクス……しかしなんだこの量は、馬かよお前は」
「オイ！前戯はこれくらいにして、次は……」

モードレッドはどうやら勘違いしているようだ
こちらは単に懲らしめるために令呪を使ったまでだ

「……は？今更犯りたくないってど
ういうことだ！？」



「こんな生意気な女としたいくないっ
て？
オレは男だって言っただろ…ま、ま
あ謝ればいいんだろ？さっきはわる
か…何？土下座だと？お前いい加
減に…ま、待って！やらないなんて
一言も言っていないだろが！」

じゃあこちらの言ったこ
とを繰り返してみて

「も、モードレッドは…
は、はっ…冗談じゃね
え…クソ…発情した…め
、メス犬です…」

ま…マスターにお、おち
んちゃんを入れてもらいた
いの…に生意気な態度を取
ってすみませんでした…

下賤なメス…うう…下賤
な…メス犬の分際で…マ
スターにたいへん不遜な
ことを言ってしまう申し
訳ございません、どうか
お許しください…

だから…そのおちんぽで
…オレの恥知らずのま、
まんこを思いっきりお仕
置きしてください！

…お願いします！その
遅い肉棒でオレのまん
こを掻き混ぜて種付けし
てください！

（ああ…そんなこと指示
されてないのに自分から
言ってしまった…）」



アドリブまでやったし、
誠意ある謝罪として認め
ようじゃないか。自分
でもやっぱいいや。自分
でオナニーでもしてなさ
い。

「くっ…こいつ…!!! パ
カにしやがって…!!!
待ってるよ、痛い目にあ
わせてやるからな…」
「…くうん…ま、また
イク…」

怒るのか発情するのかわど
ちらかにしたらどうだ
し…かしこの勢いだど、令
呪の効果が消えるまでオ
ナニーし続けそうだ



《ステンノ&エウリュアレの場合》

「あらあら、こんなところに虫がいるわ、私（ステンノ）。カルデアの衛生管理はまだまだ改善する余地はありそうね！ いっそ踏んでしまおうかしら？」

「ふふ、本当ね。…でも踏み潰したところで足が汚れるだけよ、私（エウリュアレ）。」

「まあ、虫の分際で不満そうな顔をして。虫なのに生意気ね、うふふ…」



口が悪すぎたので令呪で発情させてみた

「くっ…令呪をこんなことに使うなんて、救いようのない童貞ですこと。そうでしょ、私（エウリュアレ）」

「ええ…そうよ！童貞のくせに。無造作に捻り潰したいところね、私（ステンノ）」

「虫から童貞へ。レベルアップと思ってるのだからか？それとも彼女たちにとって童貞は虫から以下の存在にあたるか？」

「私たちの顔にそんな汚らわしいものを擦りつけるなんて！ 冒犯的だね、私（ステンノ）」
「そうね、私（エウリユア）」私たちがこんな醜態を晒されるなんて、髪まで使われて、これだから童貞は……」
「こんなに熱く脈打たせて、ほっぺが火傷じちやいそう……」
「こんなに濃厚な匂いが、鼻から直接入り込んで、脳まで犯されそう……」

シルクのような感触をしたエウリユアリのほっぺたは肉棒を擦り、ステンノの額と鼻が絶えずに先っぽを刺激してくれた。纏わりつく髪の毛と彼女たちの息遣いはさながら女性器の如く肉棒を包み込んでくれた。
女神二人の依然として尊大な態度は、押し潰された顔のせいで滑稽に見える

「ふあ：驚くほどの量ね：童貞だけあって、随分と溜まり込んだこと。これからは女神たる私たちが筆下ろししてあげるわ。どうせこうなって欲しかったんでしょ？」

「！？」
「もう満足した？で、でも：私たちはまだ……！そ、そういう意味じゃないわよ：もう：その意味深長な薄ら笑いはどういう意味なのかしら？私たちを弄ぶなんて……」
「許せないわ：この件は高く付くわよ！：そうでしょう？私（エウリユア）」
「そうよ！覚えてなさい、次はこうはいかないだから……」



《ジャンヌオルタの場合》

「ちょっと！どっで見ているのよ。万年発情期の猿のくせに、私のマスタ―を名乗るなんて千年早いわよ！そこ邪魔。焼き殺されたくなければ部屋の隅っこまでどきなさい！」

オルタが横暴すぎたので、令呪で発情させてみた

「くっ…女をこんな姿にさせて楽しいの？まあいい、今のうちにせいせい楽しむがいいわ…これから燃えカスにされてしまっもの」



「!? そ、そんなわけないじゃない。ただ…ちょっとだけ…も、もういいですよ。こんな姿にさせてやることは決まってるでしょ？ ささっと終わらせて、そしたらあなたを殺してあげるから」

と言っても、もう下はぐちよ濡れなんだね。オルタって見られて興奮するタイプ？

「ぶっ……ん……ん……」

オルタがまったく反省する素振りを
見せないで縛って見た。
彼女がゴクッと飲み込む度にはつき
りどどの輪の収縮が伝わり、まるで
本当に性器に挿入しているように感
じた。

「ちょ、ちよつと！一発出
しただけなのにどこへ行く
のよ！？」

だから犯りたいわけじゃな
いって。発情して頭ん中セ
ックスしかないって、猿み
たいだな。

「なんですって……この……」

「！！」
「あんたね……ちやんと口
の中に出すこともできず
にそこら辺にぶっかける
なんて……猿以下なんじゃ
ないの？」

「！？待って、行かないでよ！くっ、解けない……これも
令呪の効果なの？……
それじゃ何もできないじゃない。それにこれの出力設
定が弱くて……すぐられるみたいでもどかしいのよ……ね
え！戻りなさいっば！！」



「てめえ!!!よくもバカにして
くれたな!!!
痛い目にあわせてやると言った
よなあ!
この...クズ(グリッ)
クス(グリッ)!
クズが(グリッ)!!!」

《令呪の効果が続いた場合》

「はあ...はあ...踏まれて恥
ずかじげもなく射精したと
は...やはり...どうしようも
ないほど...クズなんだなお
前は!」



「ねえ、私（ステレン）。女神を愚弄するこのお馬鹿さんには、どうお仕置きしようかしらね？」
「うふふ…こんな恥ずかしい状況なのに勃起しちゃうなんて、どうやら反省する気はないようね…どう？ここ揉まれて気持ちいいのかしら？この童貞クソムシが…ふーん。やはり去勢でしか貴方の罪は償えないかしらね。このままちんこもいじやおうか？どう思う、私（エウリュアレ）？」
「アハハハッ！今ヒクンってした！」

「どうしちゃったの？怖いのお？でも残念、今更もう遅いわ！…でもまあこのままじゃ可哀想か。間を取ってタマだけ潰しちゃおうかしら、私（ステレン）？」
「あはっ、それいい！そうしよう、私（エウリュアレ）！治療ができるサーヴァントはいっぱい居るわけだし、一回や二回潰しても問題にならないよね！」
「残念だったね、童貞さん。脱童より先に去勢を体験させられちゃうなんて！」

「残念だったね、童貞さん。脱童より先に去勢を体験させられちゃうなんて！」
「それでは私（ステレン）。三つ数えて潰しましょう！」
「ええ。それではいーち…三…！アハハハ、嘘よ。そんなに震えちゃって、かわいいそう。タマ潰しながら、するわけないじゃない（ー！）」
「か！わ！い！い！ほ！っ！ど！じ！ち！や！っ！た？（三…）」
「で！は！仲直りの証に！」

「三つ数えて潰しましょう！」

「アハハハハ！すこーい！潰された瞬間に達じちゃうなんて！アハハハ！」
「おもしろーい！電流を流されたカエルみたいに痙攣しちゃって！」
「あら…まだゴリゴリした物が残っているわね。ごねごね！」
「ねえねえ、これ超面白いの。クセになっちゃうそうだが、私（ステレン）！」
「そうね、私（エウリュアレ）。さっそく治療できるサーヴァントを探してきましょーう。そしたら何回でも遊べるわ。うふふ…」
「いいわ！それじゃあ、私たちが飽きるまで頑張つてよね、童貞くん！」

「どうした？さっきまで偉そうにしてたじゃない？今の姿じゃ、私の思うままに動かされる肉人形みたい」

「おもちゃを返してあげるわ！後ろの穴まで詰め込まれる感覚はさぞいいでしょうね！あなたと違って私は優しいから、全部MAXにしておいたわ。感謝しなさいな！」

「ふお…！これ…最高…」

「これで終わりと思いましたが？ここからが本番よ…今は焼かないおくから、ここからはノンストップ射精地獄。私を満足させてみなさい。その時まで耐えられるか怪しいけどね…」



【後記】

あとがき

皆さんこんばんは。お買い上げありがとうございます。

二度目の絵本(?)方式をチャレンジしてみました。内容の昔と違って本番一直線じゃなくなり、正直ちょっと不安です。

個人的に、特にラスト3ページはドM向けの内容になってると思います。実を言いますとM向けの作品はあまり知らなくて、こういう話が好きな読者は満足していただけるかどうか…同時に、通常のHやS向けの話が好きな読者はこの本を受け入れてくれるかどうか…とても心配です。でもアイデアが湧いてきたし、こういった試みもしてみたかったし、何とかして完成させました。

モーさんは特に好きなキャラですので、ちょっと補足を。モーさんパートは性自認性の話にも関わりますが、展開の都合上ああなるべくしてああなただけで、自分は女性差別をするつもりはありません。どうかそのまま話としてお楽しみくださいm(_ _)m

それと…本当にやる人はいないと思いますが、タマ潰しはフィクションです。絶対にやらないでくださいね。

(10ページしかないのにあとがきに注意事項まで書いてしまいました…しかも二つも…実はやっぱり内容だったりして)

モーさん以外、枚数が少ないながらもぬちゃんとゴルゴン姉妹も書けまして満足です。ラクガキ本のつもりが、気がづくとき書き込みがすごいことに(それでPF27に間に合わなかったです)。早く描けるようになりたいものです。

それでは、また次回お会いしましょう。



刊名：《生意気なサーヴァント達を令呪で強制発情させてみた》

作者：FAN

発行：F.W.ZHolic

印刷：樺舎印前

初版：2017/11/25

PIXIV id=1434758

Facebook：@fwzholic

Plurk：@fwz_0716

twitter：@alex30818

→ あとがきのレイアウトをメチャクチャにしたぬちゃん。体に落書きする話を書く予定でしたが、やはりどこか違和感を感じたので没になりました。